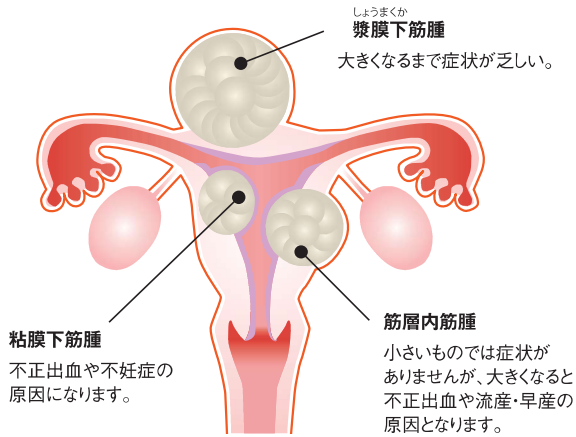




久留米大学病院 新しい子宮筋腫治療 ～カテーテルで切らずに治すUAE～

放射線科(IVR、画像下治療) 准教授

こがねまる まさみち
小金丸 雅道



参照:公益社団法人日本産科婦人科学会HP

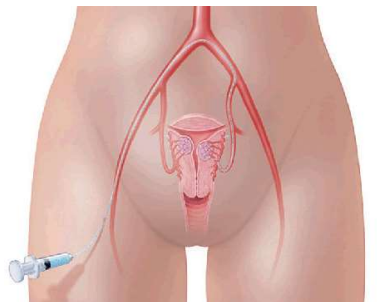
子宮筋腫は珍しくない腫瘍です。小さな筋腫も含めると、30歳以上の女性の20〜30%にみられます。がん(悪性の腫瘍)ではありませんが、さまざまな不快な症状の原因となり得ます。筋腫は卵巣から分泌される女性ホルモンによって大きくなりますが、閉経すると逆に小さくなるのが知られています。複数でできることが多く、数や大きさもさまざまです。大きさをやできる場所によって症状が違ってきます。主な症状は、月経量が多くなることや月経痛です。その他に不正性器出血、腰痛、頻尿(トイレが近い)などがあります。

「子宮筋腫とは」
子宮の壁にできる良性の腫瘍

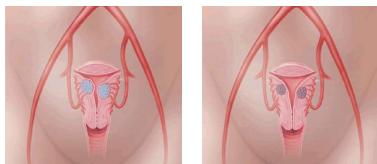
治療法は手術と薬物療法があるが
久留米大学は子宮動脈塞栓術も実施

子宮筋腫治療の経験豊富な
婦人科医師と連携して治療

小さくて無症状の場合は治療の必要はありません。治療法には手術と薬があります。手術では子宮を取ってしまう「子宮全摘術」と筋腫だけを取る「筋腫核出術」などがあります。その他の治療法に、久留米大学病院では子宮筋腫に対するカテーテル治療「子宮動脈塞栓術(UAE)」を行っています。保険診療による当治療は、2016年に九州の大学病院で初めて開始されました。UAEとは、子宮筋腫に栄養を与えている子宮動脈を、塞栓物質でふさぐことにより、筋腫への血流を遮断し筋腫を縮小させ、筋腫による症状の緩和を目的とする治療法です。UAEは局所麻酔で行い、治療時間は約90分程度です。入院日数、社会復帰までの期間が短い低侵襲な治療であり、開腹手術のような大きな傷痕は残らず、子宮を温存できる利点があります。



カテーテルを両側の子宮動脈に挿入して塞栓物質を注入



筋腫内に塞栓物質が入った状態
その後筋腫が縮小した状態

子宮筋腫は婦人科領域の疾患です。久留米大学病院では、これまで多くの子宮筋腫治療に携わってきた婦人科医師と、治療前の診断から治療まで密に連携を取り、質の高いUAE治療を行います。UAE前は、婦人科医師による超音波断層診断、子宮頸部および体部の内膜細胞診検査、MRI検査などを行います。UAEは悪性疾患の存在を否定することが必須です。このため婦人科医師の診察が加わることで、患者さんはより安心してUAEを受けることができます。またUAE後は、まれにいくつかの合併症が起こることが知られていますが、発熱や性器出血が続く場合などは、必要に応じて婦人科医師より適切な処置が行われます。

【UAEの対象となる患者さま】

- ・子宮筋腫由来の症状がある(過多月経、圧迫症状など)
- ・症状が薬剤治療では制御困難
- ・外科的手術の適応とならない、または希望しない
- ・妊娠をしていない、将来の妊娠・分娩を希望しない
- ・子宮がん検査が陰性(子宮肉腫の可能性が極めて低い)
- ・骨盤内に感染症がない
- ・閉経前である
- ・最後のホルモン療法後、最低8週間以上経過している